

# Special Report

JAPAN

WHAT THEY LOVE  
OF JAPAN:  
KOREAN STORIES



# 私たちが

# 日本の●●を 好きな理由

韓国人編

日韓関係

日本との縁を育んできた  
韓国人一人一人の物語  
彼らの本音の「日本論」から  
日本と韓国を見つめ直す



# 新

型コロナウイルスの感  
染拡大に伴い、反中感  
情が世界に広がってい  
る——そんな報道が出

た。憎むべきはウイルスであり批判  
すべきは当局の対応だとする冷静な  
声や、中国人差別に反対する動きも  
ある。だが蔓延する不安が、「自業  
自得だ!」「出て行け!」という罵  
声をネットや路上にあふれさせる。

本誌は前号で、日本との縁を育ん  
できた中国人たちを取り上げた。東  
京で活躍する声優から上海で日本式  
の保育園をつくった母親まで、一人  
一人の物語を提示することで、いま  
さに目の前で起こっているような、  
国と国民を同一視して糾弾する言説  
に異を唱える狙いがあった。

今号は韓国人だ。過去最悪に陥つ  
た日韓関係の中で、韓国人は全員  
「反日」だと捉え、それに対抗する  
かのように、韓国政府に限らず「韓



国人」全体を批判する日本人——。  
日本のカルチャーを敬愛する韓国人  
を紹介することで、そうした風潮に  
対しても、日本と韓国との確かに  
存在するつながりを再提示できれば  
と願っている。

毎号一般人のスナップ写真を無数  
に載せる「東京グラフィティ」とい  
う日本の若者向けカルチャー誌があ  
る。2019年12月号の特集は「日  
韓LOVE&PEACE」となかな



かに冒険的だ。山本太郎やタレント  
のはるな愛、評論家の金慶珠らが登  
場し、関係改善を訴えている。

だがそれよりも目を引くのが、日  
本人と韓国人夫婦の家族8組、そし  
て日本人と韓国人の若いカップル10  
組のスナップ写真だ。韓国のアイド  
ルや化粧品が好きな日本人もいれば、  
日本のアニメや映画が好きな韓国人  
もいる——といった、誰もが聞き  
する以上の「つながり」が軽やかに

映し出されている。

今すぐに韓国人の  
友人を見つけること  
は難しいかもしれない。だが、本誌で描  
き出す韓国人たちの  
物語に耳を傾けるこ  
とで「人を知る」視  
点を得ることはでき  
る。なぜソウル出身  
の女性タレントが日



本語で短歌を詠むのか。なぜ韓国の  
DJが日本の「昭和歌謡」をメイ  
ンに活動するのか。そこから見えてく  
る何かがあるはずだ。

国同士の関係には厳しい現実が横  
たわっている。しかし個人レベルの  
つながりもまた、もう1つの確かな  
現実だ。彼らの「日本の●●を好き  
な理由」が、韓国だけでなく日本を  
見つめ直すきっかけにもなる。

森田優介(本誌記者)

## テ

テレビ画面の端に映る小さなワイプ画面の中で、カン・

ハンナ(38)は涙を拭きながら、メイン画面では別の場所にいる芸人3人が話していたが、彼らがおかしかったからではない。彼女の初めての歌集『まだまだです』(KADOKAWA)発売を祝う言葉に心を打たれていたのだ。

歌人でタレントのハンナは現在、NHKのEテレで放送中の『NHK短歌』にレギュラー出演している。2019年12月1日の放送で、そんなシーンがあった。

日本語で短歌をたしなみ、歌集まで出版した彼女はソウル出身の韓国人だ。韓国で天気キャスターなどをしてきたが、30歳を迎える頃、人生に悩んでいたという。それまで南米など各地を旅行していた

が、なぜか日本に來ると自分らしく過ごせる気がする。そこで日本で暮らしてみようと決意し、飛行機に飛び乗った。折しもタイミングは11年2月。短歌はおろか、日本語もほとんど話せなかった彼女は、来日してすぐ東日本大震災に直面した。

「周りの友人はみんな帰国し



てしまったけれど、私は逆に日本にいたい気持ちになった。悲しみに暮れている人がいる場所から去ることに納得できない思いがあった」

そう感じた彼女は、異国で独り暮らす孤独を選択した。以来約3カ月間、寝る間も惜しんで日本語を独学し、芸能事務所に所属するかたわら大学院進学を目指した。そして15年に横浜国立大学大学院に

入学し、現在は博士課程で日韓関係を研究している。

短歌と出会ったのは14年だ。NHKのオーディションがきっかけだった。以前に新海誠監督のアニメ映画『言の葉の庭』を見て、そのテーマとなっていた万葉集は知っていたが、まさか自分が短歌を詠むとは想像もしなかった。

オーディションでは短歌を書く課題もあり、彼女は100首も詠んだという。「いま考えると、5・7・5・7・7に言葉を当てはめただけの

もの。それでも合格できたのは、可能性を見てもらえたからかもしれない」

最初は出演者の1人にすぎなかった。しかし16年を皮切りに3年連続で角川短歌賞に入選するなど、めきめきと腕を上げた。その驚きも含めて、番組共演者たちは祝いのコメントを寄せていたのだ。

短歌の魅力は何かと尋ねると、すっとシリアスな表情になり、「好きのレベルを超えている」と答えた。

「角川短歌賞に応募する際には、まず200〜300首を詠む。そこから削って50首にまとめるが、『私はどういう人間なんだろう』って見つめ

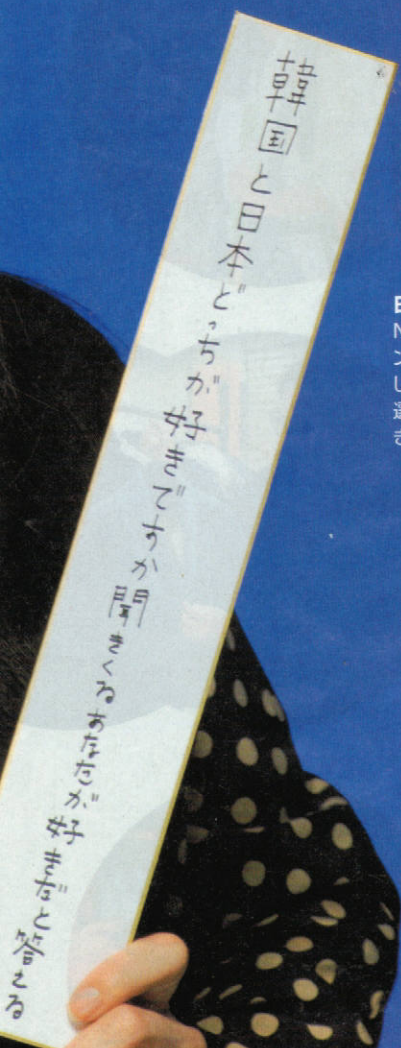
## 시인

日本語で詠む  
NHKの「短歌de胸キュン」「NHK短歌」に出演し、角川短歌賞に3回入選するなど腕を磨いてきた(右写真が歌集)

## Kang Han-nah

カン・ハンナ

歌人

自らを31字で表現する  
短歌は好きを超えている



直さないと流れをつくれぬ。自分自身の過去や見たくない部分を見ないとならなかった。と、とてもしんどかった」と彼女が言う。「でも、その作業をしていくうちに短歌Ⅱ私になっていった。今は短歌を通して自分自身を表現しているところですよ」

## 巖島神社の経験が原点

歌人・タレントの活動をしながら大学院に通うのは簡単なことではない。しかし学者と歌人のどちらも自分だからと、両立を決意している。その根底にあるのは初めて日本を訪れた06年の体験だ。

ツアー旅行で、行き先は広島だった。巖島神社に圧倒された彼女は、「何百年も続く歴史を守り続けていくことや、生活の隣に祈る場が存在している日本の姿に尊敬の気持ちを持ち、日本をもっと知りた」と思った」と語る。

その後、来日。日本を知るだけでなく、「活動を通して日韓の懸け橋になれば」と思うようになったが、それが両立を目指す理由だ。「私の発言が韓国人の総意として捉えられてしまっただけは危険なので、メディアに出るなら歴史や文化を知る必要があると気付いた。本当にまだま

だの私だけど、短歌も勉強も続けていきたい」

歌集の「まだまだです」というタイトルには、この言葉自体が好きな気持ちと、未来の可能性への希望の両方が込められていると明かす。

「『まだまだです』って日本語がすごく好きで。前向きな気持ちにさせてくれるところが素敵だと思っし、読者にもそういう意味がある言葉だと再認識してもらいたい」

すか聞きくるあなたが好きだと答える」

歌集に収められたこの歌の「あなた」が誰かを、ハンナはあえて限定していない。日本人かもしれないし、韓国人かもしれないし、それ以外の国の人ということもあり得る。「日本語が母語ではないからこそ、短歌を通して日本語の魅力や日本人の心を伝えるこ

とができるかもしれない」と希望を口にする彼女は、「●人ではない、たった1人のあなた」に向けて、今日も31文字を編み続けている。

さらさらと流れを止めない川が、いつしか大海に注ぐように。彼女の歌もきっと日本と韓国という枠を超えて広がっていくことだろう。

朴順梨(ライター)

# 순례길 안내자

## 私

はお遍路に救われた—そう柔らかくほほ笑む崔象喜(44)はソウル在住。2010年3月に四国八十八箇所と別格二十霊場を巡拝して以来、7回結願(修行を完了すること)している。今ではお遍路

の達人として、日本と韓国でその名を知られている。「歩くことで、自分に向き合う時間ができる。今日は何を食べようかとか、どこに泊まろうかとか、頭の中が単純になっていくのが分かる」両親と兄2人の5人家族だった。父を事故で亡くした30代半ば、ほかにも不運が重なり、塞ぎ込む日々を送っていたという。そんな折、大阪に住む日本人の友人から、弘法大師とお遍路について聞く機会があった。当時韓国にあってお遍路に関する本は2冊きりで、情報が少ない上に総距

離約1200キロを歩くには平均1カ月半かかるらしい。それでも彼女は、仕事を辞める不安や日本語がほとんど分からない問題がありながらも、四国を目指した。傷を癒やすために歩いてみよう—。最初のうちは、道しるべを見逃したり、地図の読み方が分からなかったりで苦労することも多かった。それでも「一緒に歩きませんか」と言ってくる他のお遍路や、贈り物や親切を施して応援する「お接待」の支えで、平坦ではない道を歩き通し、42日で結願した。歩いたことで、何

が変わったのだろうか。「チャレンジしたいことがあっても、失敗するのではないかと考えてしまうと、動けなくなる。でも思い切ってやってみたら、何とかなることが分かった。以前は未来が分からないことが怖かったけれど、今は未来が分からないことにワクワクできる」

以来ほぼ毎年、八十八箇所巡りを続け、14年には日本人と韓国人、イギリス人からの寄付を元に、香川県三豊市に休憩所「日韓友情のヘンロ小屋」を日本人建築家と造った。16年に韓国で出版した「四国を歩く女」は、お遍路をした韓国人のガイドブックにな



四国愛 お遍路の休憩所を造ったり「弘法大師と一緒に」を意味するバッジ(左)を配ったりしてきた

## Choi Sang-hee

崔象喜(チェ・サンヒ)

お遍路案内人

### 1200キロの道のりが私を救ってくれた

「四国に行くたびに「こんなに素晴らしい心がある場所が世界に存在しているのか」と感じる」と彼女は言う。「四国はどんな人でも受け入れてくれる。白衣を着れば国籍やお金がいくらあるかなど関係なく、誰もが同じお遍路になれる。そんな宝物のような場所であることを、日本人に気付いてもらいたい」

その四国愛はお遍路にとどまらない。昨年夏には、高知でよさこい祭りの踊り手に参加。だが今は日韓関係が悪化している時期だ。彼女は気にならないのだろうか。

「韓国のお遍路仲間関係悪化について、「四国を回るときに優しくしてくれた日本人の顔が浮かぶから悲しい」と言っている。日本人も韓国人も相手をもっと知ってほしい。

だから私は、自分を癒やしてくれた四国のことを韓国人に伝えていきたい」

修行のゴールである結願から始まった道には、これからも日韓双方からたくさん心が寄せられるに違いない。

朴順梨(ライター)

## 男

性数人で泊まったときは、他の宿泊客がいなかったからリビングで寝そべって宴会をしていた。ここに来ると日本語で話せるから友達の家にいる気分になれる」

島根県在住の丸石博は、人間でくつろぎながら「もう何回泊まったか分からない」と笑う。「ここ」とはソウル駅近くにあるゲストハウス「剛の家」のこと。オーナーの名は小川剛。しかしそれはニックネームで、本名は金喜雄(56)という韓国人だ。

「長瀬剛の剛と、長瀬がドラマ『とんぼ』などで演じた役名の小川英二にちなんで、小川剛と名乗ることにした」

金と日本語との出会いは小學生時代にさかのぼる。父がある日、絵本をプレゼントしてくれた。イラストに日本語の単語が添えられたもので、気に入って繰り返し読んでいたという。その後、本格的に学びたいと思ったのは高校生のとき。観光名所の景福宮の前でたびたび、日本人観光客を案内するツアーガイドを目にした。「スーツを着こなしているかっこよかったので、

自分もなりたいたいと思った」

母親の体調が思わしくなかったことから、大学在学中に兵役に行き、除隊してすぐに公務員試験を受けて刑務官になった。母の治療費もカバーできる手厚い医療保険制度があったからだ。しかし、日本人に韓国を紹介したい気持ちには変わらせず、偶然知り合った日本人男性から贈られた『とんぼ』や『傷まみれの青春』のCDを聴いて好きになった長瀬剛の曲やドラマで、日本語を学び続けた。

いつしか友人たちから「剛」と呼ばれるようになった金は、退職して2000年にゲストハウスを始める。

## Kim Hee-ung

金喜雄 (キム・ヒウン)

※ゲストハウス「剛の家」オーナー

日本人客をおもてなし  
「小川剛」の語った原点

長瀬だけじゃない 趣味のオーディオやバイクに優れた日本製品が多いことも日本に興味を持った理由

日本人宿泊客から贈られた土産品が並ぶ「剛の家」には、韓国のゲストハウスには通常はないバスタブやトイレレットペーパーを流せるトイレがある。日本人の習慣に合わせるためだ。宿泊客の多くがリピーターだと、彼らからの手紙をとじた分厚いファイルを見

민박  
주인

せながら、金は胸を張る。

そんな「剛の家」ですら昨年秋以降、日本人が減少した。年末年始は日本人とパーベキユーをするのが定番だったのに、今年はシンガポールからの宿泊客だけ。しかし金は不安を感じていないという。

「日韓の距離が近くなったり遠くなったりするのは、今に始まったことではない。免疫ができていて、10年以上の付き合いがあるゲストが多く、彼らに支えられている」

高校生の息子2人の冬休みを利用し、親子で滞在していた丸石もその1人だ。丸石は島根県が韓国の慶尚北道と国際交流を行っていることから、子供たちを韓国にホームステイさせたり、韓国の中学生を受け入れたりにしている。

「日本が好きという人は韓国にたくさんいると思う。相手を知れば差別意識を持つこともないし、僕は韓国と親しくしたい」と丸石は言う。

金には2人、丸石には4人の息子がいる。「相手を知る」を実践してきた父親の姿を見た彼らが、日韓の未来を切り開いていくことを今は願う。

## 東

京・渋谷のクラブ「Womb」。20

19年12月、「北酒場」や「風の素顔」などの懐メロに熱狂して体を揺すっているのは、ヒット当時を知らない若い客たちだ。

この一見すると不思議な状況を生み出しているのは33歳の韓国人DJ、ナイトテンポ(Night Tempo)だ。昨年末、彼はアイドル歌謡からニューミュージック、演歌まで、80〜90年代の日本の「昭和歌謡」を踊りやすくリエディット(再編集)してプレイする「ザ・昭和グループ・ツアー」ライブを日本の各都市で開催した。なぜ若者が親世代の曲で踊

るのか。なぜ自身も若い韓国のDJが、昭和歌謡メインに活動するのか。これらの謎は、19年に本格的に日本で活動を開始するや否や現在まで続く躍進を見せてきたナイトテンポの軌跡を追うことで見えてくる。

「日本でもよくあるじゃないですか。洋楽の歌詞が分からなくても、これ好き、みたいな。それと一緒に」

日本の音楽との出会いを、ナイトテンポは流暢な日本語でそう説明する。きっかけは、仕事の出張で頻繁に日本を訪れていた父親が買って帰ってきた懐メロCDのお土産だったという。

当時は日本語が分からなかったが、お土産の中にはWiNKや中山美穂などがあり、その「時代の雰囲気、音の『色』、イメージ」に魅了された。彼が9〜10歳頃の話だ。

やがて成長すると、ネットを通じて同じ「色」の音楽を漁るようになる。中山美穂の「CATCH ME」の作編曲者として知った角松敏生は、最も敬愛し目標とする音楽家になった。昭和を感じる書籍やアニメグッズなどを大量に買

## 緩急自在

会場を沸き立たせる一方、観客とのやりとりでは笑いも忘れない

## Night Tempo

ナイトテンポ

» DJ

「昭和」で世界をグルーブ  
懐メロを更新するDJ



# 디제이

STOP

CH

夜

Night Temp

STOP

CH

夜

い集め始めたのもこの頃だ。

ライブ時の衣装はレトロ口風  
ファッション、決めポーズは  
アニメ「セーラームーン」に  
インスパイアされたもの、と  
いう現在のナイトテンポの素  
地がこうして出来上がった。

## 時代をキュレーション

趣味として昭和歌謡に独自の加工を施した音源をネットに公開するようになったのは、6年ほど前からだという。公開した曲の1つが、竹内まり

やの「プラスチッククラブ」だ。これがYouTubeで約1000万回再生される特大ヒットになり、欧米やアジアで日本発の音楽ジャンルであるシテイポップが注目されるきっかけの1つとなった。

シテイポップの盛り上がりを受け、ナイトテンポもアメリカや中国など複数の国でライブを開催した。昭和歌謡だけを流す構成ながら数百人から1000人以上を集める盛り上がりで、特にプラスチッククラブ・ラブはこの国でも踊りつつの大合唱になるという。その興奮は日本人にも伝播している。そして、海外発の

日本ブームを背景にナイトテンポが日本でも活躍するという一種の転倒を生み出した。昭和がファッションとして、一般の層に広がり始めたのも若者ファンが多い理由だとナイトテンポはみる。

昨年夏は日本最大級のロックフェス、フジロックに出演。これまでに日本のレコード会社から、杏里などのヒット曲をリエディットした作品を3度にわたり発売した。2月には第4弾としてBaBeのリエディット作品のリリースも控えている。昨年は、オリジナルアルバムも発表した。いずれはオリジナル一本で

いきたいかという質問にも、ナイトテンポは「昭和歌謡は続けたい」と即答する。自分のフィルターを通した「架空の昭和時代」を表現したいのだ、と。ゆくゆくは「音楽だけでなく昭和文化も紹介するキュレーターとして活躍したい」という野望ものぞかせる。「今回のツアーはそのイントロみたいなものです」

そのためにも日本滞在中は昭和グッズ収集に余念がない。「裏・昭和グルーヴツアーです」。買い出しをそう表現しニヤリと笑うと、彼は夜の東京にそそくさと消えていった。

澤田知洋 采誌記者



## 山

本耀司や三宅一生、川久保玲など、優れたファッションデザイナーが何人も、これまでに日本から世界に飛び出していた。一方、彼らの服に魅せられて日本に飛び込んできた外国人もいる。韓国のアパレルブランド「ROLIAT」のデザイナー、洪承完(52)もその1人だ。

韓国第4の都市、大邱出身の洪には大学時代、日本から留学してきた在日韓国人の友人がいた。植民地化された歴史と自国文化の保護を理由に、韓国政府が日本文化の流入をまだ規制していた1980年代後半の話だ。その友人が日本の雑誌を持っていた。「ファッションが好きだった私は『メンズノンノ』や『メンズクラブ』といった日本のファッション誌にすっかり魅了されてしまった」

いつしか洪は日本でファッションを学ぶことを決意する。その友人が休暇で日本に帰るたび、雑誌や音楽CD、さらにはテレビ番組も録画して持ってきてほしいと頼み、彼が戻るのを心待ちにした。それらを通し、また語学学校にも

## Hong Sung-wan

洪承完 (ホン・スンワン)

» アパレルブランド「ROLIAT」デザイナー

## 洋服づくりを学んだ 東京でのハードな4年間

通って日本語を学ぶと、大学卒業後、東京へ向かった。

さらに語学学校で半年学んだ後、東京モード学園へ。そこで4年間はまずプロ意識をたたき込まれたが、とにかくハードな生活だった。

「朝から午後遅くまでみっちり授業と、毎日降り注ぐ課題。帰宅して夜遅くまで課題をこなすのが日常だった」と洪は振り返る。「でも本当にやりたい勉強だったので、楽しかったし、幸せだった」

日本のファッションには伝統的で高級感のあるイメージから日本的でありながら前衛的なイメージまで、さまざま



**日本的なセンス**  
洪は大学時代に「メンズノンノ」や「メンズクラブ」に魅了され、留学を決意した(ソウルの城北区にある直営店にて)

A TはTAILOR(仕立屋)を逆さにして名付けた。「本格的なテイラーの感性を応用し、現代的に再解釈した」ブランドで、現在は韓国のほか、日本のセレクトショップにも展開。英情報誌「モノクル」などで紹介され、ソウルの直営店まで買いに来る日本人客もいるという。

もちろん洪は、日本の影響のみを受けてジャケットやコートを作ってきたわけではない。しかしファッションエディターの高橋一史は、西洋の仕立てをベースにしつつも、どこか日本的に思えるデザインだと評価する。「派手さを好むファッション通が多い韓国よりも、渋い好みの感性を持つ日本人に近いセンス。ヨーロッパのモードのような自己顕示や派手さもない」

東京からソウル、そして世界へ。ハードだった4年間は、今も洪の中に息づいている。

な側面があると洪は語る。日本で基礎を身に付けた洪は、卒業後に帰国。大学院でさらにアートを修め、サムスン傘下のアパレル企業やメンズブランドを経て2001年、自身のブランドでソウルコレクションでのデビューを飾った。09年に立ち上げたROLI

## 패션 디자이너

マニア ソウルで開催されるガンブラ・エキスポには毎回大勢のファンが押し寄せる(下、17年)、熱心なファンのチョンは自宅のケースにガンブラを入れて飾る(左)



## ADDICTED TO GUNDAM ガンダムベースが 韓国に12店もある理由

社会 放映開始から40年以上が過ぎた  
日本屈指のコンテンツは韓国でも大ウケしている

1 979年に日本で放映が始まった『機動戦士ガンダム』シリーズは昨年、40周年を迎えた。これまで数多くの関連作品が生み出されテレビや映画で展開されている。なかでも、登場する「モビルスーツ」を商品化した「ガンブラ」の名で知られるプラモデルは世界中で人気。韓国も例外ではなく、ソウル最大の展示場COEXで開催されるガンブラ・エキスポは、毎

回子供から大人まで多くの人が集まる一大イベントだ。

アジアにはガンブラファンのために、「ガンダムベース」と呼ばれるガンブラの公式直営店があり、各種イベントなども行われている。そして、

日本に2店舗、中国と台湾に1店舗しかないガンダムベースが、韓国には12店舗もある。

4年前のエキスポに行き、昨年は秋葉原まで限定商品を買に行ったほどガンブラに入れ込んでいるチョン・ジンス(45、仮名)もその1人だ。「テレビなどで見ていたモビルスーツを自分の手で組み立て、いつも自分のそばに置いておけるのが最高に楽しい」

チョンはこれまでに完成品を含めて30体ほど購入し、本格的なケースに入れて自宅に飾っている。「ガンブラの組み立ては簡単なものばかりではなく、作品によっては完成に数日かかることもある。熱心な人は、レーザーカッターを買うなど、道具にも凝っている」。ガンブラが韓国で人気をさらうのは、国内にはガンダムのような男性向けの趣味になるコンテンツが少ないからだ、と、チョンは言う。

ガンダムベースはソウル市内に6店舗あるほか、釜山や大邱、光州などの地方都市にも6店舗ある。その関係者は、ガンダムの魅力をこう語る。

「韓国におけるガンダム人気の理由は人それぞれだが、国籍に関係なく魅力的なのはやはり(モビルスーツなどの)デザインだと思う。唯一無二のかっこよさだ」。いま韓国で最も売れ行きがいいガンブラは、日本でも人気が高い『機動戦士ガンダムUC(ユニコーン)』(日本では2016年にテレビ放映)に登場するモビルスーツで、「安定的に売れ続けている」と言う。

ガンダムベースが韓国に12店舗もあるのは、チョンが指摘するように「韓国には日本のようにプラモデルの小売店が少ないから」だ。ガンダムベースの関係者によれば、遠路はるばるソウル市内の店舗に来る顧客からは、もっとガンダムベースを地方にも造ってほしいという声が多く寄せられているという。

日本でも衰えを見せないガンダム人気。韓国でも下火になることはなさそうだ。

朴辰熾(ハクシチ)

FROM LEFT: COURTESY OF JEON JIN-SU, YONHAP NEWS/ATO

## 冷

麵をはじめ多様な種類を誇る韓国料理に囲まれて育った南昌秀(39)が魅せられたのは、日本そばだった。日本

屈指の料理専門学校である辻調理師専門学校を2007年に卒業すると、韓国での下積み経験を経て2012年にソウルに自身のそば店「美な味(みなみ)」を開店した。

高級ブランドショップが立ち並ぶ江南エリアで伝統的な日本そば店を経営するオーナー兼料理人の南に、日本そばの魅力や日本での専門学校時代について、ジャーナリストの朴辰娥が聞いた。

—そばとの出会いは？

韓国の料理専門学校を卒業後にアルバイトをしていたレストランで、日本料理に興味を持った。留学した辻調理師専門学校時代からそばは知っていたが、本当の魅力を知ったのは卒業してからだった。ソウルのウエスティン朝鮮ホテルで料理人として働いていた頃、少し長い休みが取れるとよく日本を旅行した。仕事柄、日本を訪れるとミシュランガイドを手日本料理店

に入ってはさまざまな種類の料理を試した。昼食で2カ所夕食で1カ所、夜食にもう1カ所入った。

そばの魅力に気付いたのも、東京の神田で夜食巡りをしてきたときだった。いわゆる伝統料理や高級料理とは違うのだろうが、料理のシンプルさ

## Nam Chang-su

南昌秀(ナム・チャンス)

» そば店「美な味」店主

シンプルにして深遠  
日本そばに魅せられて

と店の雰囲気を含めたバランスに魅了され、漠然とそば店をやりたいと思った。残念なことに、その店は閉店してしまっただけだ。

そばを学ぶために再び日本に住むことを決めた私は、大阪に住み奈良のそば店で見習いを始めた。しよゆや麵の





# 셰프

違いを食べ比べていると、そばが醸し出す雰囲気につきかり魅せられた。

韓国で麺類を提供する店はたいいてい大声が飛び交っている。日本のそば店は静寂な雰囲気、あたかも過去の時代にタイムスリップしたかのような気分になった。店内の人がその場の空気に同化し

ていくというか、そんな感じを受けた。

——器への関心も高い。

日本での学生時代は、手持ちの小銭を数えながら食べる場所を選んでいたが、社会人になると本格的な日本料理店に入ることができた。出された料理だけを見ていた学生時代とは違い、テーブルクロスから店内の雰囲気まで、全体を見渡す余裕もできた。特に、食事をよりよく見せてくれる器に魅せられて、日本を訪れては食器を買ったものだ。

——日本の料理学校での生活について教えてほしい。

素晴らしい経験だった。辻調理師専門学校での勉強は本

## 創意工夫

(右から時計回りに)ソウル有数の高級商業地区に店を構えて8年になる南、食材を美しく見せる器にも強いこだわりが、お客に一番人気のニシンそば

当に楽しく、授業のクオリティーは韓国で通った専門学校とは比べものにならないほど高かった。基礎課程の内容はどの学校でも似たような内容かもしれないが、教師1人が生徒1人に徹底して教えてくれ、質問すると1から10まで直ちに答えが返ってくる。学生たちも楽しんで勉強しているのがよく分かったし、寝ている生徒などもない。韓国の専門学校とは違った。

——韓国にもそば粉を使った麺があるが、違いは？

韓国のメミルクス(そば麺)と日本のそばには大きな違いがある。日本そばは純粋なそば(そば粉)の味がするが、メミルクスは刺激の強いタレをからめるし、製法も

違う。日本のそばは非常に創意工夫が詰まっていて、料理人は季節感を重視して調理する。例えば、春には具材が桜の形にカットされていて、食べる人が「あ、春だ」と感じるこ

とができる。秋にはキノコ類が添えられるなどして季節感が出る。そうした演出技法が豊富に見られる。

——確かに、韓国ではあまり見られない。

冷麺がいい例で、韓国人は一年中同じ味で提供されるこ



とを望む。スライスされたキウウリと梨と、牛肉が添えられたものだ。具材がおいしい季節かどうかは関係ない。

もし梨やキウウリの切り方を変えるなどして料理人が変化をつけたら、「これはなんだ。オーナーが変わったのか？」と言われるだろう。韓国ではこうした変化を拒む空気がある。スターバックスで季節ごとのメニューが出されることはあっても、冷麺に変化が起きることはない。

——自分が作るそばのメニューにも、毎年変化を加えている。以前には毎週日本を訪れて材料の買い出しをしていた時期もあった。

——お店の評判は？

日本に住んだか旅行したことがある人は味を楽しんでくれるが、そうでない人は少し苦手なようだ。通な人からはそば粉の割合が低いとクレームを受けたこともあるが、こうした日本の伝統的なそば店が韓国にあることに感謝したいと言ってくれたお客さん

——人気のメニューは？

本ニシンそば。不動の一番人気だね。

## 韓

国には「敵産家屋」とも呼ばれる、植民地時代に建てられた日本風の古い家屋が各地に残っている。それらを訪ね歩き、『韓国』の「昭和」を歩く（祥伝社）という本に

まとめたのは、紀行作家で翻訳家の鄭銀淑（52）だ。1996年から2年間日本に留学していた鄭は、帰国後、1920〜30年代に発行された韓国の雑誌を目にし、ある思いを抱いたと語る。

「それまで知っていた植民地時代は、独立運動が盛んで誰もが苦しんでいる姿。だがそんな中にも普通の生活もあり、喜怒哀楽があると気付いた」

京城と呼ばれていた頃のソウルには、朝鮮人御用達の百貨店もあった。独立運動に身を投じる人もいたが、モボ・モガの洋装（モダンボーイ、

モダンガールの略で、西洋文明の影響を受けて日本で流行した）に憧れる人もいた。暗いだけではない時代だったことを雑誌から知った鄭は、瓦屋根や縁側などの特徴を持つ日本家屋にとりわけ興味を抱く。それには留学時代、日本人と触れ合ったことで「日帝」や「優れた製品を生み出す先進国」といったステレオタイプを捨てることができ、一人一人の顔が見えてきた経験も影響していた。

「帰国すると、それまで何となく見ていた日本のものにも体温を感じるようになった」と、鄭は言う。「日本家屋もその1つ。長年の風雪に耐えてき

た家屋を眺め、そこに住んだ人たちの生活感や喜怒哀楽を想像したいと思った」。そうして国内を取材して回ったが、当時はあまり資料がなかったため、日本人村があった町の古老に話を聞いたたり、家屋研究家を訪ねたりして情報収集した。日本家屋が多く

残っていたのは、南西部の群山や木浦のような、植民地時代に発展したがその後廃れた地方の町。独立直後、「日帝支配の象徴」として神社は取り壊されたが、帰国した日本人の家屋は韓国人に払い下げられたりし、その後も長く残ったためだという。

興味深いのは、鄭の本が日本で出版された2005年以前、韓国ではほとんど気に留められることのなかった日本家屋が、2010年頃から注目されるようになったこと。現在は保存の動きが盛んだ。「自国の文化に自信を持てるようになり、植民地時代も隠せない歴史の事実として受け止める気持ちで韓国人の間に出てきたのではないか」

鄭はまた、20〜30代の若者が「オシャレ」「映える」と見ている側面もあると話す。「日帝支配への複雑な心境はあるが、写真を撮ったりして文化として楽しんでもいる」

日本家屋と並んでお酒が好きな鄭のライフワークに、酒場巡りがある。日本で韓国の酒場案内本を多く出版し、地元のお店を日本人に紹介している。鄭によれば、ソウルや地方に残る日本家屋が飲食店や民宿として活用されている例もあるそうだ。

固定されたままに思えても、韓国社会と韓国人の心は確実に歩み進んでいる。鄭が見つける日本家屋からはそんなメッセージも読み取れる。

朴順梨（ライター）

## 기행작가

## Jung Eun-sook

鄭銀淑（チョン・ウンスク）

紀行作家・日本家屋研究者

## ソウルや地方に残る日本の古い家を訪ねて



家屋紀行 植民地時代の建物を改装したカフェ(右)と往時そのままの家屋(左)を前に(北東部の江陵にて)

# Suh Kyu-ho

徐圭浩(ソ・ギョホ)

」鉄道マニア



## 銀河鉄道999に憧れ 日本を旅して20年

### 乗

り鉄や撮り鉄など  
コアなファンが多  
くいる日本の鉄道

だが、韓国にも日本の鉄道を  
こよなく愛する「鉄ちゃん」  
がいた。鉄道旅行のコンサル  
タント、徐圭浩(43)だ。

幼少の頃から鉄道好きで、  
大学で観光開発学を学ぶと卒  
業後は旅行代理店に就職した  
根っからの旅好き。特に日本  
の鉄道に魅せられ、これまで  
に日本で走る列車の8割に乗  
った。韓国のネットメディア、  
オーマイニュースに日本での

鉄道旅行について数多く寄稿  
してきた徐に、ジャーナリス  
トの朴辰娥が聞いた。

——いつから鉄道に興味を持  
ち始めた？

子供の頃から好きで、10歳  
になると一人で地下鉄に乗る  
のを楽しんだり、駅の名前を  
全部覚えたりしていた。南北  
境界線の非武装地帯付近にあ  
る汶山駅まで行ったこともあ  
る。日本の鉄道に興味を持っ  
たのは、漫画やアニメで有名  
な『銀河鉄道999』の影響

が大きかったと思う。蒸気機  
関車が宇宙を飛んで走るなん  
て、驚きの発想だった。

——これまで日本で多くの鉄  
道に乗ってきた。

日本を初めて訪れたのは大  
学生の時で、JRの乗り放題  
切符を使って友人らと10日間  
で日本を一周した。卒業して  
からは旅行代理店に勤務し、  
仕事でもよく日本に行った。  
就職してから3年後の200  
2年には日本の地方都市の担  
当主任になり、北海道、東北  
四国や沖縄などへのツアーを  
企画した。

幌へ行く旅を企画した。これ  
が好評で、実際にこのルート  
を旅した韓国のジャーナリス  
トが記事にしてくれたことも  
ある。

——日本を鉄道で旅する面白  
さは？

日本の鉄道は地域の特性が  
見られるのが楽しい。車内で  
ライブ音楽のパフォーマンス  
があるなど、イベントも盛り  
だくさんだ。スタンプラリー  
でさまざまな駅を旅する企画  
も楽しい。  
列車のデザインも、工業デ  
ザイナーの水戸岡鋭治による  
九州新幹線のデザインや、ア  
ニメの『新世紀エヴァンゲリ  
オン』を描いたものなど、見  
ているだけでわくわくする。

当時、これらの地方都市は  
韓国人にとってはまだマイナ  
ーな存在。札幌などへは大韓  
航空しか就航しておらず、航  
空券も4万〜5万円と高かつ  
た。そこで、(当時は)札幌  
よりも安かった青森に飛び、  
そこから夜行列車を使って札

地方を走る列車のスタイル  
は、古典的だが洗練されてい  
る。そうした列車に乗りたく  
て、あえて普通電車に乗るこ  
ともある。車内トイレに汚れ  
がないなど衛生面も良く、路  
線案内の看板も分かりやすい。  
韓国の鉄道会社も見習うとこ  
ろが多い。



韓流「乗り鉄」(上段左から時計回りに)今でも現役のSLに感動(大井川本線)、被災地の駅も訪れた、鉄道旅行の専門家として独立した徐(ソウル駅)

## 철도여행 전문가

特に趣があるのは1両編成  
の列車。乗客同士の会話に温  
かい雰囲気があり、眺めてい  
ると人情を感じる。

■

FROM LEFT: JEAN CHUNG FOR NEWSWEEK JAPAN, COURTESY OF SUH KYU-HO (2)

VISITING JAPANESE-STYLE BAKERIES IN SEOUL

# 日本のパン、韓国で人気です

## 日

本で生まれ育った筆者が、韓国との行き来を始めた90年代半ば頃は、

「韓国のパンはまずい」と感じていた。高級デパートで買ったものですら、おいしいと思ったことはなかった。

しかしパティシエが主人公のドラマ『私の名前はキム・

カフェやベーカリー、スイーツのブームがちょうど来ていて、その場で作って販売する店が流行し始めていた」と、

ベーカリー「青い鳥」のオーナー、小林達は言う。

日本人の小林が手掛けるこの店は、14年に首都ソウルの弘大地区にオープンして以来人気を博している。カフェスペースも併設するベーカリーだが、この日も朝から女性4人組やカップルがブランチを楽しんでいた。

ルポ  
パン不毛の地だった韓国に「日本のパン屋」が増加  
総菜パンに生食パン  
ソウルの2店舗を訪れた

サムスン」が放送された2000年代に入ってから、韓国のパンやケーキは格段に味を上げていった。その一端を担ったのが、日本で学んだパティシエや日本人のオーナーシェフたちだ。

「韓国に初めて来たのは2010年だが、激しく変化している最中だったように思う。

「そのほうが自分でも愛着が持てると思ったのと、日本人がやっている日本風のベーカリーということを見せせても評価してもらえらるだろうという自信があったから」

顧客は約95%が韓国人

パンは高級グルメではなく、生活の中にあるもの。だから小林は、手軽に買える値段を維持するため、韓国で流通している材料のみを使用する。「小麦粉の種類が日本よりも少なく個性が出しにくいところもあるが、ある材料で十分美味しく作れている。やきそばパンが一番人気なのは意外だったが、『炭水化物に炭水化物が入ってて珍しい』と言われたり、日本への留学経験者が『懐かしい』と手に取ってくれている」

常に約70種のパンを並べている同店の客は、約95%が韓国人。日本人との違いは、ナイフとフォークを使いたがる点だ。やきそばパンですらナイフで切ってフォークで食べる人が多いという。

青い鳥から約2・5キロ離れた孔徳地区にある「匠や」では、生食パン1種のみを扱っ



おなじみの味 人気ランキングの1位はやきそばパンという日本人経営の「青い鳥」はカフェスペースも併設、職人がオープンキッチンに立つ



ている。値段は2斤9000円(約840円)で、日本の高級生食パンとほぼ同じだ。オーナーの金淵勲は高校から社会人になるまで、現代建設に勤める父親の都合で日本に住んでいた。東京韓国学校から上智大学に進学した彼が当時ハマっていたのは、ラーメンの食べ歩きだ。

卒業後は日本で就職したものの、2000年に兵役のため帰国。徴兵特例制度により、国が指定する企業で働く代替服務者となった。そこで現在彼が「メンター」と呼ぶ、株主の日本人男性と出会い、日本への関心をさらに深めている。04年に退社し、ソウル市内にとんこつラーメン店の「博多文庫」を開いた。

その頃は韓国に、とんこつラーメンの店がほぼなかったことが理由だ。生食パン店を始めたのも「日本でヒットしている生食パンが、韓国にもあつたら」と思ったから。18年11月にオープンした「匠や」の店内には、食パンだけが並んでいる。個別包装して飾られているスライスパンは、文具やシャツのようにも見える。程なくして、近所に住んでいるというヤン・ジヨハが、5歳になる娘のイアンを連れてやって来た。「会社の仲間が差し入れてくれたのがきっかけで、好きになった。柔らかくて新鮮なので、トーストせずそのまま食べるのが定番だ」

20代の頃は日本の豊田通商に勤務していたというヤンと親のそんな様子をイアンは、日本語で会話をした。父不思議そうに見つめていた。

「博多文庫」を開いた。その頃は韓国に、とんこつラーメンの店がほぼなかったことが理由だ。生食パン店を始めたのも「日本でヒットしている生食パンが、韓国にもあつたら」と思ったから。18年11月にオープンした「匠や」の店内には、食パンだけが並んでいる。個別包装して飾られているスライスパンは、文具やシャツのようにも見える。程なくして、近所に住んでいるというヤン・ジヨハが、5歳になる娘のイアンを連れてやって来た。「会社の仲間が差し入れてくれたのがきっかけで、好きになった。柔らかくて新鮮なので、トーストせずそのまま食べるのが定番だ」

「匠や」の店内には、食パンだけが並んでいる。個別包装して飾られているスライスパンは、文具やシャツのようにも見える。程なくして、近所に住んでいるというヤン・ジヨハが、5歳になる娘のイアンを連れてやって来た。「会社の仲間が差し入れてくれたのがきっかけで、好きになった。柔らかくて新鮮なので、トーストせずそのまま食べるのが定番だ」

個包装で美しく 韓国人経営の「匠や」は生食パンの専門店、日本の高級生食パン店と店の雰囲気もパンの価格も違わない



朴順梨ライター